

法学委員会ジェンダー法分科会(第24期・第3回)
議事録

1. 日時

平成30年9月3日(月) 10時00分～11時30分

2. 場所

日本学術会議 6-A(2)会議室

3. 出席者

三成美保(委員長)、吉田容子(副委員長)、武田万里子(幹事)、谷口洋幸(幹事)、糠塚康江、廣瀬真理子、浅倉むつ子、戒能民江、紙谷雅子、後藤弘子、辻村みよ子、二宮周平、廣渡清吾、水島郁子、吉田克己、立石直子、平山真理、以上17名

4. 議題

審議に先立ち、三成委員長より、定足数を満たしており、会議が成立していることが確認された。

(1) 前回議事録の確認

前回議事録について、異議なく承認された。

(2) シンポジウムについて

同日午後開催予定のシンポジウム「セクシュアル・ハラスメントをめぐる法政策の現状と課題—ハラスメント根絶に向けて—」について、当日の役割分担、取材申し込みに対する対応、動画撮影等の最終確認を行った。分科会終了後、報告者、パネリスト、司会者の打ち合わせを行い、討論の論点を議論する。

シンポジウムの成果を踏まえ、2019年6月を目標に提言をまとめる。WGで提言案を作成する。

(3) 今後の課題について

本年5月に政治分野における男女共同参画推進法が成立、施行されたことの意義および課題を中心に、今期の取り組むべき課題について、今期第1回分科会に引き続き意見交換を行った。最後に三成委員長より、2019年3月か4月頃にポジティブ・アクションのシンポジウムを計画したい、内容は、推進法の意義に加え、候補者養成についても含める、とのまとめがあった。関連して、シンポジウムの成果は提言として公表すべきである、との意見が出された。

(4) その他

次回委員会の開催予定日は、11月か12月で調整することになった。提言のたたき台を検討する。

以上